

浄土宗
摂取山
念佛寺 報

撰取

第 24 号

暑さ寒さも……
いやはや お彼岸ま
で30℃超！

夏が終わり、「暑さ寒さも彼岸まで」と書くところなのですが、今年はいつまでも暑



カリガネソウ (雁金草) 2007年9月10日撮影 ★佐藤貞女さんからのいただきもの。よく咲きました。我家で撮影

咲かないですね。サルスベリは遅くまで咲いているような気がします。

言葉

汝等皆当 にやうとうがいとう

信受我言 しんじゆがごん

(阿弥陀経)

この諸仏所説の御名、および經の名を聞かん者は、…皆、一切諸仏に共に護念せられて、阿耨多羅三藐三菩提(あのくたらさんみやくさんぼだい)の悟りを得る。この故になんじら皆、ま

さに我が語、および諸仏の諸説を信受すべし。

Q & A

Q 「三月越しの四十九日」
つてよくないの？

A 三月越しの四十九日を嫌う風潮は「始終、苦(四十九)が身につく(三月)」とか「三月忌月」という語呂合わせが起源のようです。

先日、ノートルダム清心女子大学の学生さんが社会学の研究のためにということ、新庄村内に滞在されています。この念佛寺にも訪問された。この念仏寺にも訪問された。その中にも、この質問がありました。そこで応えたのは、「三月越しがだめだったら、月の十三日、十四日以降に亡くなった方は、みんな三月越しになっちゃいます。月末に亡くなったら、三十五日に



サギソウ 鉢から大空に飛び立ったサギソウ(久米中学校にて)

も経たないうちに四十九日(満中陰)の法要をすることにもなっちゃいます。四十九日ぴったりにならなくても住職、施主、そして参詣の方々のひどく支障のない日ということであればよいと思います。」と。

《編集後記》

今回は、佐藤貞女さんからだいたカリガネソウがたくさんきれいに咲いたので、二十一号にも載せた花ですが、もう一度掲載してみました。

もう一枚の写真は、久米中学校に勤務していて、久米の方からサギソウの鉢をいただき校内で育てていたものが咲いたものです。それを空を飛んでいるように写したものです。